

KSKQ

イマージュ

2022年10月

1991年9月3日 第三種郵便物承認

毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行



しろはなびらのうた

白
花
弁
の
歌

劇団態変第74回公演

『白花卉の歌 (しろはなびらのうた)』

11月11日 (金) 19:30

11月12日 (土) 14:00 / 18:30

11月13日 (日) 12:00 / 16:30

会場 AI・HALL (伊丹市立演劇ホール)

チケット絶賛発売中!

白花卉（しろはなびら）の歌

汚濁の世界 人類を再び愚かしい過誤に引きずり込んでいく、巨きなパワーゲームの唸る音しかもう聞こえない

なにを求めて生きて行くのか、の問いも、無駄な時間としての意味だけしか無いのか

世界を仕切る連中のその顔、顔、顔 もう見飽きたよ、この茶番劇

お気軽に平和ぶって、気づかない多くの人たちにも、もっと飽き飽きだ

我々はまるで、バスに置き去りにされ、炙られ渴きもがきながら独りで死んでいくしかなかった園児

爛れ腐った生き地獄を舐める喘ぎを、誰一人として聞く耳を持ちはしない

汚れきったこの世に

公正なんてどこにそんなものがあるか、剥く牙も、もう散々に叩きつけられ

突き落とされたどん底に、ばらばらに打ち砕かれ

それでも無力をしぼって叩きつけられ、大地は「痛いよ」と跳ね返してくる

もう両方から挟まれ、遣る瀬ない身悶えばかりのこの身なれど、

その境界面には、新たな摩擦と潤滑の化学があり

すべてを掻き混ぜフュージョンさせる大なる渦巻きを、立ち昇らせる

黙ったままでは、只では済まずまいと、台風の目になるんだよ

汚れきった世に、真と偽を分ける自然の営みを、浸透させる渦巻きだ

そんなホントウのモノ、は、此処にしかない、と

そんなモノを、聴きたくはないか！

今、聴かないと、嘘だろう

* * *

なにをやっても嘘になる、無力感が蔓延するこれまでにない酷い時代、が来てしまったという感がしています。

そんなときに、芸術は、身体表現は、態変は、もう一度原点に戻り、ひたすら身体へ向かいたいと思います。

実直に、無口に、抽象であるからこそ、あのどちらが善だか悪だかのなすり合いの巨きくてどす黒い得体のしれないものに對して、逆風の風に身を晒し、真と偽を分別する行為へと向かう衝動があります。

身悶えする身体は今死んで今生まれている、その生と死の境界面で、ただ在ることを引き受ける、そのような身体回帰を、今こそ我々は、やらねばならない。身体をどこまでも深く凝視しに行こうと、そして、具体的にもっともっと遠くを掴みたいと。

汚れきった世界に、もう此処にしかない純粹さを求め、あの世とこの世の狭間にある、

白花卉の歌を、聴くために、さあご一緒にいたしましょう。

金満里



態変の真髄としての抽象身体表現で魅せる、渾身の舞台。

この歪んだ、汚濁した、末期的な世界。戦争や激しい格差といった残酷な現実。それをかき回し、吹き飛ばす嵐を、今回、本当に本気で舞台上に現出させます。そしてその「嵐」のあとに、わたしたちは静謐な世界を創り上げたい。それを態変身体で表現しようとする前代未聞の挑戦が、今まさに生まれつつある『白花卉の歌（しろはなびらのうた）』なのです！

近年、態変は独自の身体表現を基本としながらも、ファンタジーやSFといったジャンルに挑み、ひとりひとりのパフォーマーが持つ表現の幅を広げてきました。様々なキャラクターに粉し旅を重ねてきた今だからこそ、態変の真骨頂といえる、抽象身体表現に回帰する時。いよいよ機が熟したのだと考えます。

『白花卉の歌（しろはなびらのうた）』という一見口マンチックなタイトルに乗せ、金満里が創作する今回の舞台はしかし、ただの原点回帰にとどまりません。より核心に迫る表現へと、毎回の稽古は勢いを増しつつあります。妥協せず爆発する身体が、一転して、全く静かではるかな風景へと立ち替わるその瞬間を掴もうとする、無謀とも言える挑戦。それは態変の身体が、最もやりたいと夢見てきた表現でもあります。

今回も音の世界には、かつぶじたまごが作る日常生活の中から切り取られたたくさんの音が登場します。そして舞台美術「逆風の目」とは一体何か・・・？ 緻密に構成された音・光・美術が身体と重なり合いながら、ともに唯一無二の空間を創り上げていく様は、長年態変舞台を観ていただいた方にも、新しい観客の方にも必ずや楽しんでいただけることでしょう。

様々な冒険を経た今こそ、態変の真髄としての抽象身体表現を見ていただきたい、渾身の舞台。たっぷりご堪能下さい！

（劇団態変制作部）

『白花卉の歌』9月11日の稽古後、パフォーマーだけで、作品への思いや、身体について、わらわらと話が始まった。

理屈じゃない、『白花卉の歌』

小泉 『白花卉の歌』って、態変では珍しい作品タイトルなんか。ある意味かわいいうか、いとおいしいというか……。作品への印象、どんなン思ってるのかな、みんな。

下村 花卉っていうと、柔らかい感じがするんだけど、なんか「白」っていうだけでどこか孤独や厳しい美しさを感じさせるような……。

小泉 うん、「花卉」「歌」って、どこか柔らかい印象を覚えるのに、実際はすごく厳しい作品だよな。「死へ向かう」とか。

渡辺 「花」って言っても色々あるじゃないですか。今回は皆が、これでもかっという位ジワッって動いたり……。普通の綺麗っ言うんじゃなくて、儂げな感じがあったり。

小泉 タイトルの印象だけじゃなくて、なんか今回の作品は、「理屈じゃない!」「オレたちの身体表現を凝視しろ!」って感じがするんですよ。稽古してて楽しい! 僕は「これぞ態変!」っていう作品やと思っっていて。



下村 そうやね。今回は、この数年取り組んできた「さ迷える愛」の三部作とはまた違った意味で、具体的じゃなく皆の身体を見せるのが勝負、みたいな感じになっていて……。

今回の作品に取り組んでいて、挑戦したこととか、身体表現に対する思いとか、なにかある?

床面、転がり、足の裏

小泉 態変の作品って床面をすごく大切にしているんだけど、今回も、やっぱり「これでもか!」っていう位……。こんなに床面を感じさせる劇団って、中々無

使っんです。

小泉 へえ。ちよつとこの場で立っってもらっって良いですか?



渡辺 私は自力で立っって歩ける訳じゃないから、当然、何かに掴まっって立つわけだけど、こんなふうには手の指先と、足の裏を付けて、ぐーっって腰を上げて、掴まれるところを持っって立ち上がるんですよ。

下村 おーっ、腰が上がりきっって、手先と足裏が身体を支えている姿勢が綺麗。

小泉 踵から膝、膝から太股をかけて腰までを一本の線にして、それを踵が核になっっているんですよ。そういった足裏を表現に転化したいんや。

渡辺 そうなんです。

田岡 私は、私の身体で遊んでいる。CPやから、不随意運動があるやろ。勝手に

身体が動き出すねん。それを家で、一人で居るときに遊んでる。めっちゃ面白いねん。

(一同) それは面白い! めっちゃ舞台で観たい!

池田 内股! 脳性麻痺独特の。元々は嫌いやったけど、態変で表現をするようになって、障碍があっって良かったな、っ感じてている。

下村 僕は「あいだ」かな。例えば床面と上げた脚の間とか、指と指の間とか……。そこに宇宙を感じるねん。それを表現したい。

じっくりと身体表現に懸ける

小泉 今回の出演者「みんなCP!」やな。金さんはポリオやけど。まあ、CPの身体には「太刀打ち出来んわ」っって思うよ。ある意味、僕の欠損っって「手が無いだけ」だから。その分脚が強いけど、そこに表現を集約させると「健常者のな部分で? 出来る事見せびらかしたいの? バラリンピック?」っってじぶんでも思うし、じゃあ、欠損の手で?、と思うと「無い手で健常者の真似したいんか?」っって思うし。結局、金さんもよく指導してくれはる、「胴体からの動き」それに手や脚が付随する身体に今回挑戦したいな、と思う。ちなみに「手足をほとんど使わず、床

いと思うわ。

渡辺 今回、床面をひたすら這っったり転がっったりしていて、「床面」っっていう一番低いところにいるんやけど、逆に「宙に浮いてる」みたいな感じがする。

田岡 今回は「ゆっくり」転がるところがあっって、それが難しい。

池田 そう言えば、田岡さんの転がりっって、前もつとゆっくりやっただじゃないですか。それが、今となっっては、先に前ずり出ている小泉さんを抜かす勢いの速さやっただじゃないですか。別に速さの意味がある訳じゃないけど、なんか「こう身体が変わっった」とか、あるんですか?

田岡 気持ちが入ったら、速く転がれるようになっってきた。

小泉 気持ちが入ったら、それに身体が呼応した。っっていうことなんか。

田岡 態変に入る前は自分は動けないと思っっていた。

(一同) めっちゃ動いてるやん!(笑)
小泉 ちなみに渡辺さんは、先月位の稽古で「足の裏を感じて動こうと思っってる」っって言っただけど、

渡辺 私、立ち方が変わっってるから、っていうか、家で一人だと一人で立つじゃないですが、そうすると、スゴい足の裏を

面を這う」というのをやっているんだけど、気がつくと、意識的に動かそうとされていない足の甲側の部分や足指が擦り傷になっって剥けてるねん。痛いけど、なんかそれが嬉しい……。っって、オレは態変か。

下村 『ニライカナイ・命の分水嶺』東京公演を挟んで、「さ迷える愛」三部作をこのメンバーで駆け足でやってきたけど、今回はちよつと足を止めて、それぞれが「自分の身体」にじっくり向き合っって、態変ならではの〈多様な身体表現〉に取り組める気がする。

今回の公演では、パフォーマーそれぞれが、しのぎを削る身体表現を観客の皆さんに観てもらいたいね。11月の本番では、今の稽古からどう舞台ができていくかに懸けたいね。頑張りましょう!





劇団態変 賛助会員制度（2022年度） 会員募集

劇団態変が賛助会員制度による事務所運営を開始してから、10年が経ちました。お陰様で、しぶとく表現活動を継続することができました。

現在、未だ終息を見ないコロナ禍で、私たちの劇団運営も経済的、人材的に厳しい状況です。しかし、今年はメタモルホールでのイベントや、2年ぶりのインターンシップ開催など、好転の兆しも見えてきています。そして「これぞ態変！」という新作公演も、11月に皆さんにご覧いただく予定です。

この、私たちの活動には、基盤である態変事務所と稽古場であるメタモルホールが必要不可欠です。その維持のため、賛助会員を募集しています。

何卒ご協力の程よろしくお願いたします！

(パフォーマー／小泉ゆうすけ)



メタモルホールで久しぶりのイベント
8/11「書のワークショップ」開催

年会費	個人会員(年会費)	一口	5,000円
	法人会員(年会費)	一口	20,000円

入会方法 **郵便振替**
同封の振替用紙にご記入の上、お振込み下さい。
口座番号 00920-8-320343 加入者名 イマージュ・劇団態変

PayPal
メールアドレスとクレジットカードをお持ちの方はホームページよりご利用いただけます。劇団態変HP → 日本語TOP → 「賛助会員制度」にお入りください。

- 会員特典**
- ・会員証発行
 - ・劇団態変公演ダイジェスト映像DVD進呈（年1回）
 - ・態変公演チケット500円引き

情報誌イマージュ vol.83 2022年夏号

クロスオーバー談義● 郭辰雄×金満里

「日本社会が許容するヘイトクライム」

7.26 虐殺×ウトロ放火—優生思想とレイシズムへの闘いを結ぶ

特集● ヘイトクライムを許さない

ウトロ放火事件裁判速報 金尚均

トランスジェンダーに対するヘイト 塩安九十九

7.26 施設障害者虐殺6年目の追悼アクション

～施設で起きたヘイトクライム～ 佐藤菜月

相模原障害者大虐殺事件に対するイマージュ声明 他

詳細は ホームページ <http://taihen.o.oo7.jp/imaju/imaju.htm>



1冊：500円 / 年間購読 1500円（年3回・送料込） バックナンバー3冊 1000円

<購入方法> 同封の郵便振替用紙にご記入の上、お振込み下さい。単品でのお申込みは希望の号数記入もお忘れなく！

口座番号 00920-8-320343 加入者名 イマージュ・劇団態変

IMAJU 83号刊行記念 トークイベント（配信あり）

「いま、ヘイトクライムを問う

～相模原障害者殺傷事件と在日コリアンへのヘイトをどう考えるか～」

金満里×中村一成さん

開催日時：10月8日（土）19:00～20:30 （※会場は30分前より開場）

※会場での参加と、配信の両方のチケットからお選び頂けます。
※配信終了から1週間、アーカイブ配信があります。詳細はご購入後、視聴チケットをご確認ください。

<対談内容>

2022年8月末発行の情報誌「イマージュ」83号。今号の特集は相模原障害者殺傷事件から6年、各地でおきているヘイトクライムとの関連性について考察を深めたが、ジュンク堂梅田店の協力を得て、書店におけるライブ企画としてのトークイベントを実施する。

劇団「態変」主宰の金満里と対談する相手は、今年『ウトロ ここで生き、ここで死ぬ』（三一書房）を出版した、フリーランス記者の中村一成さん。この6年間、何がおこっているのか、いまおきていることをどのようにとらえ、私たちに何ができるのかを考える機会とする。

<会場>

MARUZEN& ジュンク堂書店梅田店 7F Salon de7

(大阪市北区茶屋町7-20 チャスカ茶屋町)

ご視聴&ご来店 チケット ￥1,100
書籍付き視聴チケット ￥1,320

<お申し込み・詳細>

<https://online.maruzenjunkudo.co.jp/products/j70065-221008/>



金満里ソロ公演『漆黒の赤』 DVD 発売！

定価 2500円（税込） +送料 180円



2022年3月の金満里ソロ公演『漆黒の赤』アイホール初演を収録した、公演DVDが発売となりました！

金満里のソロ公演の濃密な世界をお楽しみください。

演奏 蝦名宇摩（津軽三味線） / 書 華雪

DVD 47分

<ご注文方法>

同封の振り替え用紙にご連絡先と『漆黒の赤 DVD』とご記入の上、2680円(送料含)をお振込みください。

※入金の確認が出来次第、確認メール送信の上、商品をお送りします。

劇団態変第74回公演

『白花卉の歌（しろはなびらのうた）』

作・演出・芸術監督 金満里

音 かつふじたまこ

公演日時

2022年

11月11日（金）19:30 ★

11月12日（土）14:00 / 18:30

11月13日（日）12:00 ☆ / 16:30

※受付開始は開演60分前、開場は開演30分前

★☆の回は終演後アフタートークを行います！

★サイトウマコト（振付家／ダンサー）×金満里

☆田口ランディ（作家）×金満里

会場 AI・HALL 伊丹市立演劇ホール

チケット（全席自由）

【前売り】 一般 3,500円 障害者／介助者 各 3,000円
 22歳以下 2,500円 12歳以下 1,000円
 ギフトチケット 3,500円（枚数限定・態変公式サイトのみ取扱い）

【当日】 4,000円

チケットご予約・ご購入

- ① 態変 web 予約フォーム（劇団態変ホームページからも入れます） ※当日精算

<http://www.asahi-net.or.jp/~tj2m-snjy/form/ticket2.html>

- ② カンフェティ

事前に精算を済ませチケットを入手できるので、当日に受付の煩わしさが無いのがメリット。

手順：

- (1) 以下のサイトまたは電話で予約をし
 (2) セブンイレブンでチケット発券
 カンフェティのサイト <http://confetti-web.com/taihen-74/>
 カンフェティチケットセンター 0120-240-540（通話料無料・受付時間平日10時～18時）
 ※web予約は観劇ポータルサイト「カンフェティ」への会員登録要（無料）
 ※チケット発券の際に別途発券手数料が必要です

- ③ アイホール ※当日精算

TEL 072-782-2000 (9:00～22:00 / 火曜休館)

お問い合わせ 劇団態変 office

TEL 06-6320-0344（留守番電話の場合はお名前と電話番号をお残してください。）

E-mail taihen.japan@gmail.com

※本公演は、アイホールの「イベントホール利用案内」に基づき感染対策を講じて開催します。
 ご来場にあたり、以下をご確認のうえ、ご協力くださいますようお願いいたします。
http://www.aihall.com/raijo_info/

表紙・p2 イラスト：OKA タイトルロゴ：東學（188）
 編集人（返送先）：イマージュ 金満里 小泉ゆうすけ 仙城真 和田佳子

〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路1-15-15

tel/fax 06-6320-0344 e-mail taihen.japan@gmail.com 定価 50円

発行人：関西障害者定期刊行物協会／大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F